



受賞作品を手に喜ぶ川村佳那さん

第31回県版画コンクールで、勝山北部中学校3年の川村佳那さんが見事最高の賞となる「福井棟方賞」に輝きました。「窓をおして…」と題したこの作品は、窓際にあるカーテンや花瓶、窓の外にある大きな木や道路などのほかに、「木だけでは殺風景なので海も描いてみました。」と海も想像して描かれており、とても風通しのよいさわやかな感じがする作品に仕上がっています。

自然の風景画を描くことが大好き！

川村佳那さん(14) 北郷町坂東島

今回の受賞について川村さんは、「大変びっくりしました。まさか、という感じです。この受賞は家族や美術の先生がとても喜んでくれました。」との感想でした。

作品は、学校の授業で手がけ、冬休みの宿題として作品を仕上げたのと、カーテンが風でなびく光景や木の葉の表現が特に苦勞しました。「と苦勞した点も語ってくれました。」

学校の科目では特に美術が好きという川村さんは、「美術の授業が週1回しかないのは残念です。」と語る一方、「自然の風景画を描くことが大好きなので、写生大会を楽しみにしています。」と笑顔で話されていました。

出会いふれあい

がんばれ元氣



鳥山ありささん(成器南小5年)

3月22日に市内で初めて開催された「チャレンジなわとび大会」において、前二重跳びの部で優勝した鳥山ありささん。家でも毎日30分近く練習しているだけあって、なわとびは得意中の得意。学校でも一番というその実力で、大会当日は292回を跳んで優勝しました。

自己最高記録が306回というところで、大会当初から優勝を狙っていました。跳んでいる最中はただ「1位になりたい。」ということだけを考えていたそうで、次々と他の選手が脱落していく、1位になったことが分かったときは、「自分につれし。」と嬉しそうに、「一杯だったとのこと。ただ、記録には満足しておらず、自己最高を更新したかったそうです。」

目標は500回。その他にも、前三重跳びで29回を跳んで3位、また、後回し跳びでも5分57秒間跳び続けて3位でした。前三重跳びはあと一回跳べれば優勝という記録でした。

それだけでなく、前四重跳びもできるという鳥山さん。今後は、一回だけできたことがあるという、「四重跳びX」という技をもっと跳べるようになりたい。」とのことでした。

なわとびだけでなく、スポーツ全般が大好きな鳥山さんは、1年前から勝山アスリートクラブに入部。第2、第4土曜日の午前中(4月から)は毎週水曜日、土曜日(成器南小学校で、短距離走を中心に陸上競技の練習に励んでいます。

かつやま恐竜の森で桜を植樹



土を丁寧にかぶせています

3月25日、継体大王即位1500周年記念事業の一つとして、桜(エドヒカンザクラ)の植樹がかつやま恐竜の森で行われました。

この記念事業は、古代国家の形成に大きな役割を果たした継体大王を、歴史的な重要性だけでなく、今生きている私たちが誇りに思い後世に伝えていこうと、昨年度から県内各地で行われており、同事業実行委員会によると、県内259の地域で1500本の桜を植える計画とのこと。

当日の植樹には、記念事業に寄付をされた市民8人が参加し、造園業者のかたがたの指導を受けながら21本の桜の苗木を丁寧に植えました。

植樹に参加した北郷町坂東島の笠川矩治さん(10歳)は、「楽しく植えられました。桜はのびのびとよく育ってほしいです。」と話していました。

早ければ3年ほどで花を咲かせるそうです。

IT文化フェスティバルの開催！

3月14日、ふくい県民総合文化祭の一つ「IT文化フェスティバル」(高校生ホームページコンテスト表彰式・記念講演)が、(財)奥越地域地場産業振興センターにおいて開催されました。

この催しは、勝山IT研究会が勝山市でIT関連の普及拡大のための活動を展開していこうと開催。ホームページコンテストには16チームの応募があり、作品はいずれも力作ばかり。審査委員からは「どれも甲乙つけがたく、レベルの高い作品ばかりでした。」と高い評価を得ていました。そして、最高の賞である知事賞には、福井工業高等専門学校のチーム「FNCT@DEEP」が受賞しました。

また表彰に先立ち、上位3チームの作品発表と永木康人氏の記念講演も行われ、会場に訪れた皆さんは真剣な眼差しで聞き入っていました。



知事賞を受賞した「FNCT@DEEP」チームの発表

わがまちげんき 発展事業公開報告会

3月29日、平成20年度から装いを新たに始まった「わがまちげんき発展事業」の公開報告会が、市民約60人の参加のもと福祉健康センター「すこやか」にて開催されました。

報告会では17の団体が、協働提案の部を含めると計19の活動内容を、良かった点や問題点、今後の課題、決算状況なども触れながら紹介していました。

どの団体も自然や歴史、特産品の商品化、伝統の継承など地域の特色を生かし、地域に根ざした活動を創意工夫しながら実施しており、石畝正樹工コミューナム協議会会長は「夢のある事業を一生懸命に取り組んでいる様子がひしひしと感じられました。」と講評で述べていました。

更なる発展が期待されます。



写真による報告の様子